

平成23年  
新司法試験  
**最新合格者講義**  
OPEN

■判例百選を使いこなし、新司法試験論文試験で必要な知識を絞ることで、書ける。

# 「判例百選」 コアのコア

東京本校 11/8(火) **LIVE**  
辰巳各本校 11/14(月)~ **VB**  
通信部 発売開始 11/21(月)

## 講座仕様

**回数** 全5回・15時間

**科目** 公法系・民事系・刑事系

**教材** ・講師作成オリジナルレジュメ

※別売教材

- ・憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ
- ・行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ
- ・民法判例百選Ⅰ・Ⅱ
- ・会社法判例百選
- ・民事訴訟法判例百選
- ・刑法判例百選Ⅰ・Ⅱ
- ・刑事訴訟法判例百選

**講師** 平成23年新司法試験合格者

服部 真吾 講師

Profile

法政大学法学部卒業、新潟大学法科大学院修了。  
学部時代にはMichigan State Universityに法政大学派遣留学制度により1年間の給費留学をし、ジャーナリズムを中心に勉強しました。記事を書く練習やプレゼンテーションによって、社会の出来事を整理する訓練をした経験を持つ。この訓練で身に付けた分析力を駆使して、新司法試験に受かるための思考ツールを模索し、受験3回目ですべて新司法試験に合格。自分の不合格・合格の経験を後進の受験生に伝えたいと思い、辰巳の教壇に立つ決意をする。

「判例百選で知識を『絞り』、『読みこなす』ことで、初めて答案で『使える』ようになる！」

判例百選は、新司法試験で必要な「基礎」知識の宝庫です。しかし、今から百選を潰すのは時間的に労力をかけたくない…。また、百選は法科大学院で潰してあるから、いまさら必要ない…。そう思う方もいるかもしれません。前者の方には、実際に判例百選を使用して新司法試験に必要不可欠な知識(=「正確に覚えるべき知識(定義や規範など)」と「未知なる問題に立ち向かうための現場思考に必要な知識(判例の屈居や落としどころなど)」)の絞り方を示します。後者の方は、漫然と読み潰していた判例百選が、いかに答案を書くために必要な思考フレームの宝庫であるかに気付くはず。また、膨大な量の判例百選の中で本当に必要で答案で使える知識があることに気付くはず。実際に、講師自身は一冊につき約30判例に絞っています。本講座では、答案作成を、①「視覚化」→②「思いつき」→③「選択」→④「書面化」という四段階に分け、判例百選で絞りをかけた知識を、どの段階で・どう使い・どう書くか、この答案戦略を示します。あらかじめ答案戦略が決まっていれば鬼に金棒です。

「客観的に重要なこと」と自分の「弱点」を見極めることが先決！

3回目の受験だからこそ分かった・実感した、新司法試験における「客観的に重要なこと」と自分の「弱点」。「客観的に重要なこと」とは、合格者の誰もが身につけている基礎的な知識や出題者側が受験生に求めるものです。これらは、数多く存在する合格者の再現答案やいわゆる三種の神器(出題趣旨・ヒアリング・採点実感)から把握することができます。でも、どう把握することが合格への最短距離なのですか? 「弱点」とは、「客観的に重要なこと」から逆算して分かる「弱点」ではなく、客観的な自分の「弱点」のことを意味します。答案のどこが評価されないのか、知識が足りないのか、書き方が悪いのか、弱点は千差万別です。でも、どうすれば、客観的な自分の「弱点」に気付くことができるのか。本講座では、「客観的に重要なこと」と自分の「弱点」を把握し、把握した結果をどう活かすかのノウハウを示します。本格的な答練シーズンに入る今の時期からの学習の指針が分かるようになります。

## 講師メッセージ

合格者には共通することがあります。それは、自分の苦手な分野を見抜き、克服したことです。勉強する範囲を絞り込むのが、この講義の目的です。絞り込みを目的に据えたのは、新司法試験は、短答7科目、選択科目を含めた論文8科目の長大な範囲についての知見を試されるものであるため、必然的に勉強範囲を限定する必要がありますからです。

もっとも、この講義は、私が絞り込んだ範囲を提示することに重点を置くわけではありません。受講生の皆さんと私とは、合格に必要なことが異なるからです。この講義では、受講生のみなさんがご自分で勉強範囲を絞り込むための思考ツールを提供し、ご自身の合格の仕方を見つけるお手伝いをしようと考えています。

思考ツールの1つとして、普段の勉強から実際に答案が書けるようになるまでの過程を提示します。論文試験中の思考・動作を、①視覚化、②思いつき、③選択、④書面化の4段階に分けて、それぞれの段階で実際にどのような作業が行われるかを示します。示された中から、皆さんは苦手と感じる思考・動作を見つければ必ずです。苦手な思考・動作を強化する方法を見つけることができれば、合格への大きな一歩を踏み出すことができます。

教材は、百選と新司法試験過去問です。新司法試験では、「基本」が重要であると出題趣旨やヒアリングがよく言われています。しかし、何が「基本」かを受験生が把握することは極めて難しい状況です。このような状況において、少なくとも百選と過去問は「基本」と言ってよい数少ないものであるため、これらを教材としました。

合格者に共通するのは、自分の弱点を見つけ、弱点を補強することに成功したことだと考えます。一緒に合格の仕方考えましょう。

## スケジュール

東京本校	辰巳各本校	通信部		
LIVE	VBアース	発送日		
	時間割	利用開始	利用終了	
11/8(火)	14:00-17:10	11/14(月)	12/14(水)	11/21(月)
11/9(水)	10:00-13:10			
	14:00-17:10			
11/10(木)	10:00-13:10			
	14:00-17:10			

※辰巳各本校...東京・横浜・大阪・京都・名古屋・福岡本校

## 受講料(税込)

通学部		通信部					
講座コード	辰巳価格	代理店価格	DVDコード	MDコード	加付コード	辰巳価格	代理店価格
11NA7*	¥26,000	¥24,700	R-301R	R-301M	R-301	¥28,600	¥27,170

※注1 通学部は、受講会場(東京校・大阪校など)を申込段階でお選びいただけます。  
 ※注2 通信部は、媒体の別(DVD又はカセットテープ又はMD)をお選びいただけます。  
 MDはMDLP対応機種のみ、DVDはDVD-R対応機種でのみご利用いただけます。ご自身のプレーヤーをご確認のうえお申し込み下さい。  
 ※注3 注1での選択を、上記受講料表中の「講座コード」の「\*」の箇所以下記表の会場コードによって記入して下さい。  
 例) 東京校でLIVE又はVideoBoothで受講の場合→「講座コード11●●●\*」の「\*」に「H」を当てはめ→「11●●●H」

講座コードの「\*」に当てはめる、通学部の会場選択・通信部の媒体選択の記号の一覧表

通学 東京校はH	通学 横浜校はY	通学 大阪校はK	通学 京都校はM	通学 名古屋校はN
通学 福岡校はF	通学 宇都宮校はU	通学 岡山校はL	通学 高松校はA	通学 鹿児島校はZ